

ことばな公開録音ラジオ劇場 『愛を米とチーズケーキに込めて』劇場版地上波再放映記念  
著：水天宮パルス (yunohana-pulse)

※ ※

ことり「始まりました！ ことばな劇場！ 『愛を米とチーズケーキに込めて！』」

花陽「あ、もう始まっていました！ こんばんは、μ'sの小泉花陽です！」

ことり「μ'sの南ことりですっ！ この久しぶりな感じ！ ちょっと緊張してきましたっ！」

花陽「ダレカスケー-！」

ことり「フォットマッテ-！」

花陽「はい、大丈夫そうです！ 『好きですが、好きですか？』 それではことりちゃん、今日も行きたいと思います！」

ことり「リスナーのみなさん！ よろしくお願ひ致します！」

※ ※

ことり「さーて、早速！ μ'sの劇場版再放映がありましたっ！ と話を進める前に、ことりは少し思ったのです」

花陽「どうしたの？ ことりちゃん？」

ことり「かよちゃんが、かよちゃんが……」

花陽「え、私が？」

ことり「すごくカッコいい」(///)

花陽「えっ、えっ？」(///)

ことり「だって、かよちゃん、もう進行ばっちりなんだもん……。ことりね、さっき久しぶりな感じって言ったけど、本当に緊張しちゃってて」

花陽「そ、そうだったの？ てっきり、ただの前振りかと……」

ことり「うん。だけど、前と変わらず進行してくれたから、ことりも楽になりましたっ」

花陽「やりました！」

ことり「一生かよちゃんに付いていきます！」

花陽「あ、ありがとうございます？」

ことり「……あっ！」

花陽「今度はどうしたの？」

ことり「かよちゃんのほっぺたに米つ……」

花陽「ああああ！ い、言わないでえ！」

ことり「えへっ、やっぱり、いつものかよちゃんでしたっ！」

花陽「恥ずかしいよー……って、あれ、ついてないような……」

ことり「」ニヒ

花陽「うう……ずるいです……」

※ ※

ことり「というわけで、劇場版再放送！ みなさん、どうだったかなーって」

花陽「夜中の放映っていうこともあったけど、私はちゃーんと、生で見ましたよ！」

ことり「ことりもですっ。おかげで寝不足です……ふわあああ……」

花陽「ふわあああ……。あれ、花陽まで眠くなって……」

ことり「ふわふわチーズケーキがひとつ……とろとろチーズケーキがふたつ……」

花陽「鮭こんぶおにぎりがひとつ……塩おにぎりがふたつ……」

ことり「ふわっ！ かよちゃん、起きて！ これでは進みません！」

花陽「ふわっ！ そうでした！ えーっと、やっぱりみんなかっこいいなーって改めて思いました！」

ことり「まさかのかっこいい！ まさか今日のテーマになりつつあるのでしょうか、かよちゃんかっこいい先生！」

花陽「ことりちゃん、結構謎のテンションすぎるよー……。うん、かっこいいなーって」

ことり「ここは語ってもらえたら、ことりは嬉しいです。リスナーのみんなも聴きたがっていますよ、凜ちゃんのかっこいいところ！」

花陽「あ、あのっ！ 凜ちゃんって、ひとこともいってな……」

ことり「なら、ことりが語っちゃいますよ？ μ'sのスマイルプリンセス（スマイルPが9%UPする+かよちゃんはさらに6%UPする）！ 星空凜ちゃんのかっこいいところ？」

花陽「……なんか変な解説ついちゃってるし、微妙に間違ってるけど、いいえ、ここは私が語ります！ 凜ちゃんって、天性的にみんなのこと気遣えるっていうか……」

ことり「うんうん」

花陽「ほら、向こうでみんなで会場探していたときに雨が降っちゃって……ってあったよね。あのとき、みんな、どうしよう！ って心配してたと思うんだけど。凜ちゃんが『大丈夫にゃ！』って、どんよりとした空気が一気に晴れ上がったよね」

ことり「うんうん、そうだねっ！ 『Hello, 星を数えて』！」

花陽「ちゃんと悪い方向に行かないようにしてくれるの」

ことり「そこが凜ちゃんのかっこいいところなんだチュン(・8・)……」

花陽「現地ついたときもそうだったんだよ。穂乃果ちゃんがホテルの綴り間違っってメモしちゃって、凜ちゃん、ことりちゃん、海未ちゃんが違うホテル行っちゃったときも、凜ちゃんがちゃんとホテルの名前覚えてて」

ことり「あれは正直、ことり怖かったから、凜ちゃん、すごっ！ って思いました！」

花陽「うん、だよ！ 凜ちゃんってね、ああやって見えるけど、結構繊細なところがあるんだ」

ことり「それは衣装係のことりも、ちゃーんと把握しておりますっ！ 凜ちゃん、ウィッグをかぶって、おとなしめの女の子に大変身！ ですよ？（※SID参照）スカート履いてプリンセスの日が来るだよ？（※アニメ二期参照）」

花陽「うんうん。凜ちゃん、自分も不安なこといっぱいあると思うのに、きっと無意識だろうけど、みんなのことをちゃんーと見てて、かっこいいなーって……」

ことり「なるほど！ 花陽ちゃんが凜ちゃんをかっこいい！ と思う気持ちは分かりました！ ことりも共感しまくっちゃいます。でもっ！」

花陽「？」

ことり「あれあれー？ なんか、かよちゃん、大切なシーンを忘れてないかなー？ みんなそこが聴きたいんじゃないかなーって、ことりは思うのですっ」

花陽「えっ、あっ、あれ、ことりちゃん、なんで知って……」

ことり「すべては調査済みですっ！ っていうより、ちょっとした手違いで、凜ちゃんと花陽ちゃんの相部屋にカメラが回っておりまして……」

花陽「うう、そうでした……。私、思いっきり凜ちゃんと一緒に見てたのに気付かなかった……」

ことり「え、一緒に見てたの？」

花陽「は、はい……………(///)」

ことり「えへへ、どこからツッコミしちゃうかなーって、悪いことりが出ちゃいますっ。ここはまずは身体的なところで、もみとかよちゃんのバストを……」

花陽「わわ！ ちゃんとお話するから、出ないで！ えーっと、コホン！ 私がパパママの元を離れてホームシックになりかけてたことを、ちゃんと気付いてくれて……『かよちん、さみしいの？』って、眠れない私に声をかけてくれたのです……」

ことり「凜ちゃん、イケメンすぎますっ！」

花陽「うん……寄り添ってくれたのです。凜ちゃん、すっごく分かってくれてた。凜ちゃんが近くにいてくれたことで、私はホームシックにならずに済んで……うう……」

ことり「ジャパニーズライスだけは食べたかったみたいだけど……」

花陽「もぉ！ どうせ花陽のほっぺたは、おにぎりですよ～だ！」

ことり「でもね、かよちゃん」

花陽「うん？」

ことり「凜ちゃんって、人を安心させる才能みたいなものは絶対あると思うの」

花陽「と、突然、ことりちゃんが、いつものことりちゃんに！ うん……」

ことり「ことりも、そんな凜ちゃんがμ'sのメンバーでいてくれて良かったなーって思っています。凜ちゃんがかっこいい！ っていうのはもちろんのこと、凜ちゃんにしかない凜ちゃんの魅力があって、ことりはそんな凜ちゃんがまぶしく感じていました」

花陽「ことりちゃん……」

ことり「何度も凜ちゃんの笑顔に助けられていたのは、ことりもだよっ！ っていう話でした！」

花陽「凜ちゃんっていいよね！」

ことり「うん！ほんと！いいよね！なにしろプリンセスだし！『僕たちはひとつの光』の、アップで、映るせつない表情の凜ちゃん！」

花陽「『Angelic Angel』の『星空ニャ！』とか、もうそのまま凜ちゃんをお持ち帰りしたい！」

ことり「この街はね！アキバに似てるんだよ！……というわけで……」

花陽「うん……、うん？」

ことり「……………『転んだって凹んだって、いつもめげない勇気をあなたに届けたい——』星空凜ちゃんをお招き……」

花陽「え、ええええええええ！リンちゃんコエイル!?」

ことり「……いつかしようかと、えへへ♡」

花陽「こ、ことりちゃん、ぜったいその言い方、わざとだよね!？」

ことり「そ、そんなことないですよー、考えすぎですよ、かよちゃん♡ あっ」

花陽「今日のことりちゃんの、『あっ』は怖すぎますっ」

ことり「そんなことですよ～、ことりは怖くないですよお～。というわけで、次は質問コーナー行っちゃいます！でもその前に一曲お聞き下さいっ！穂乃果ちゃんも一緒だよ！Printemps、『ぶわぶわーお!』」

チャララー

※ ※

(BGM：ぶわぶわーお!)

ことり「残念ながら不思議な権力により歌詞を全カットしますが、妄想は頭の中だけに……じゃなかった、頭の中で歌を再生しながら、続けてこのまま聴いて下さいねっ」

花陽「気分はスクールアイドルフェスティバル！」

ことり「質問コーナー『ことばなが切る!』ですよ～。いつものノリでばっさり質問にお答えしちゃいますう～」

花陽「ことりちゃんが急にスローテンポになってる……。ドウウツナ。ブログからのたくさんの質問を頂きました。ありがとうございます！今回は『スクールアイドルの悩み!』で募集していました」

ことり「それでは早速、ラジオネーム『ハピィ-イントネ高1』さんっ。『ことりさん、花陽さん、こんにちは。私もスクー

ルアイドルやっています。同性の子供っぽい先輩と一緒に焼き芋食べたり、たまたま橋の下で合流しちゃたり、いじわるのつもりでバレンタインチョコをあげたり、劇で双子の妹役をやってその先輩に愛の告白をただけで、気があるとか同級生とか他のメンバーに騒がれます。とても面倒なのですか、どうしたらいいですか？」

花陽「ええっとお……。どうなんですか、ことりちゃん……。いきなりすごい来ましたけど……」

ことり「え～、その小さい先輩が卒業するとき本気で泣くかどうか、じゃないかな～。その先輩も『ハピィ-イントネ』さんが他のグループの女の子とピアノレッスンとかしてたりすると、すごい嫉妬しまくる路線とかいかがでしょう？」

花陽「な、なんでそんな具体的なのっ!？」

ことり「世の中いろいろなカップリングあるよねってことで、長くなったから次。ラジオネーム『スピリタスガール 17歳女性』さんっ。『ことばなさん、こんばんは焼き肉です。私のスクールアイドルユニットの後輩とよく活動の一環で兵隊ごっこをするのですが、同じグループのもうひとりの真面目な後輩が全然ノッてくれません。うまく乗せる方法を教えて下さい』」

花陽「どんな活動してるの……。でもちょっと、楽しそうですね。ことりちゃん、どう？」

ことり「う～ん……。これは難しいです～……。トリオ的に、真面目ひとりに、不真面目ふたり……」

花陽「不真面目ふたりって……」

ことり「いっそのこと、時代劇とか方向性を変えてみたらいかがでしょうか。庶民の娘、お侍さま、悪役とか。てめえ！ なにしやがるっ！ みたいなノリで」

花陽「それはそれで楽しそう！ いいかも！ では次は私が読みます。ラジオネーム『ハッシュー(高3)』さん。『ことりさん、花陽さん、いつもラジオ聴いています。私の後輩のリーダーはとても人なつこくて、すぐに抱きついてきます。ですが、ある日それを何者かにパパラッチされ、しかも夜景をバックに『○○○(後輩の名前)、そんな抱きついたらチュウしちゃうわよ?』とありもしない台詞まで丁寧に入れられ、ネットで公開されてしまいました。私はいままで真面目生徒会キャラを演じていただけに、イメージダウンで落ち込んでいます。立ち直すにはどうしたらいいですか?』」

ことり「そもそも、ハッシューさんってそういうキャラという認識なのではないでしょうか。私は同級生で幼馴染の、高坂穂乃果ちゃんと銭湯でぼでいーたっちするぐらいの仲なのですよっ！ ぶんぶんっ」

花陽「穂乃果ちゃんとか誰も言ってないよね!？」

ことり「今後は気をつけるようにしてくださいっ！ チュウとかしたらチーズケーキ、鍋に突っ込みますよっ!」

花陽「ことりちゃん、めっちゃ怒ってる！ ダレガッケー」

※ ※

(BGM:『愛してるばんざーい!』)

ことり「というわけで、今回復活第一弾のラジオ、いかがだったでしょうか? かよちゃんとしゃべっていると、あっというまに時間が過ぎてしまいますですよ」

花陽「うう、なんかすっごく疲れましてです……」

ことり「実はこれ、すべて演出なのですっ」

花陽「え、演出?」

ことり「はい、ことりはあえて激しいツッコミ役をすることで、かよちゃんのポテンシャルを発揮させるように組んだのですっ!」

花陽「事前の打ち合わせには全然なかったよっ!？」

ことり「かよちゃん、でもね。ことり、かよちゃんがいつものかよちゃんであって良かったな一って思っています」

花陽「え?」

ことり「μ'sのみんな、ずっと変わらないでいて欲しいな一って。かよちゃんって、内面けっこうお茶目なところあるよね」

花陽「そ、そうかな?」

ことり「うん、ことりはそう思っているよ。μ'sの絶妙なバランスを保ってくれる大切なメンバーのひとり。しっかりものだけとお茶目な一面もあるかよちゃん、かっこいいかよちゃん」

花陽「私はそんな風に自分で思ったことはなかったかも」

ことり「ことりのわがままかもしれないけど、ずーっと変わって欲しくないです」

花陽「しっかりものかとお茶目だとか……かっこいいかは別としてだけど……うん、ことりちゃんの気持ち分かるよ。今日のことりちゃん……ちょっと変わりすぎだと思うけど」

ことり「ぶんぶんっ! そんなことありません! ことりはことりですっ! チュンチュン!(・8・)」

花陽「でも、これは演出」

ことり「うん、これは演出だよ!」

花陽「……ことりちゃんこそ、しっかりものだけど実はお茶目な一面があるってことだよね?」

ことり「しっかりものではありませんが、お茶目かもしれません♡ あー、時間早いよ、早いよ! 話途切れない

かなって心配していたのが嘘みたいです……」

花陽「はい、というわけで！」

ことり「というわけで！」

花陽「今日はここでめさせて頂きます！」

ことり「また、お会いできるの楽しみにしています！ ことばな劇場、愛を米とチーズケーキに込めて！ お相手は！ チーズケーキに顔をうずめたい！ 緊張してたところから、すべては計算通り！ 南ことりと！」

花陽「おにぎりの海苔はバリバリ派！ うう、ことりちゃん、策士だよね！？ 小泉花陽でした！」

ことり・花陽「バイバイ！」

(了)